

# About the realities of the Internet use by children in Ishikawa Prefecture

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/6277">http://hdl.handle.net/2297/6277</a>

# 石川県内児童・生徒の、インターネット利用実態について

加藤 隆 弘

## About the realities of the Internet use by children in Ishikawa Prefecture

Takahiro KATO

### 概要

石川県内の小学生から高校生までのインターネット利用について、平成 16 年に実施された「青少年とインターネットに関する調査」(石川県健康福祉部子ども政策課)から、明らかになったその実態(インターネット利用場所・機会、目的、親の関与度など)を報告した。また、今後、この世代の子どもたちのインターネット利用に対して、家庭や地域ではどのように働きかけていくべきか等について検討を行った。

### I 問題の所在

平成 15 年の総務省の調査<sup>1)</sup>によると、我が国のインターネット利用者数は人口の 6 割超、7,730 万人に達した。この 5 年間で約 4.6 倍にふくれあがり(平成 10 年度は 1694 万人)、世帯普及率は 88.1%に及んでいる。ネットワークインフラの整備と低価格化が進み、同時にパソコンや携帯電話などが高性能・高機能化しながらも手ごろな価格で入手できるようになったことで、家庭等においても情報検索やショッピング、電子メールでの利用など、余暇を過ごすための、あるいは仕事のための“道具”としてのインターネット利用が定着しつつある。

家庭への普及により、子どもたちがインターネットに触れる機会もまた増加している。彼らは学校からの帰宅後、あるいは休日などに、ネット上に存在する様々な情報源に接続しうる状況に置かれているのである。ネット上には子どもたちにとって有益(もしくは無害)な情報もあ

れば、大人・保護者が接触してほしくないと思うような情報もあり、特に手段を講じなければそういった有害情報にも偶発的に、あるいは意図的に到達してしまうのである。

こういった「家庭の情報化」の実態から、子どもたちには、インターネットを活用していく上で求められる力(善悪の判断力、取捨選択力などの諸力)を培うことが求められると同時に、場合によっては有害情報などから子どもたちを保護する取り組みが求められる。力の育成と保護には学校教育の場での「情報教育」に関わる諸学習・活動の役割も大きいですが、同時に地域・家庭における取り組みも欠かせない。後にデータでも示すように、子どもたちはインターネットを、学校よりむしろ家庭・地域で活用している実態が明らかになっている。

また、ネット活用の道具(端末)として、パソコンとともに携帯電話からの利用者も増加していることに留意したい。(前出総務省調査より)携帯電話はパソコンに比べ、その小ささや滅多に他人と共有しないといった利用形態から、よりパーソナルなメディアであるといえる。携帯電話の利用が低年齢化している実態と合わせて考えると、子どもたちのネット利用について周囲の大人が関わりづらい状況が広がりつつある、といえる。

こういった、子どもたちのインターネット利用の広がりを受けて、石川県内では平成 16 年度から県(子ども政策課、県教育委員会など)が実態把握の調査と、学校現場への働きかけを

始めている。また、これに先行して野々市町では平成15年度から“ののいちっ子を育てる”町民会議が、「プロジェクトK」として、子どもが携帯電話を持つことについて大人・子ども双方に対して問題提起し、「持たせない」「持ちたがらない」状況を作ろうとする運動を行っている。

本論文では、平成16年度に県内で実施され、筆者が関わった二つの調査、石川県健康福祉部子ども政策課実施「青少年とインターネットに関する調査」と“ののいちっ子を育てる”町民会議実施『『携帯電話』に関するアンケート』のうち、今回は前者の検討を行い、子どもたちのインターネット活用の実態を把握し、今後の地域・家庭で取り組みを進める際の要点を明らかにする。

## II 方法

石川県健康福祉部子ども政策課が実施した「青少年とインターネットに関する調査」結果（一部省略）を提示し、これを元に考察を行う。以下に調査概要を述べる。

### ■「青少年とインターネットに関する調査」：石川県健康福祉部子ども政策課

#### 1. 調査目的

近年、インターネットや携帯電話の急速な普及により、青少年がこうしたメディアを通じ、有害な情報に容易に接することができる環境が広がっている。このため、青少年のインターネットや携帯電話の適正な利用を推進するための参考とする。

#### 2. 調査対象

一調査対象：石川県全域

一調査学年：小学校4年生、6年生、中学校2年生、高校2年生

一抽出数：4,166人

一回収数：4,166票（回収率100%）

一解答方法：教室内で別添のアンケート票に各自が自記入解答（無記名）

一調査期間：平成16年9月15日～9月30日

## III 結果

### 1. パソコンの利用実態

#### 1-1. パソコン利用経験

パソコン利用経験者はどの学年でも98%を越えている。これは、学校での利用経験も影響していると考えられる。

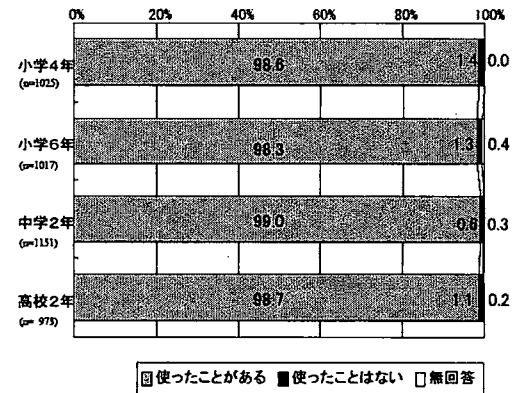


図1 パソコンの利用経験

#### 1-2. パソコンの利用場所

パソコンの主な利用場所は、自宅が最も多く、次いで学校の順となっている。友達の家、公共施設、ネットカフェなどでの利用はいずれの学年、項目においても3%を下回っている。

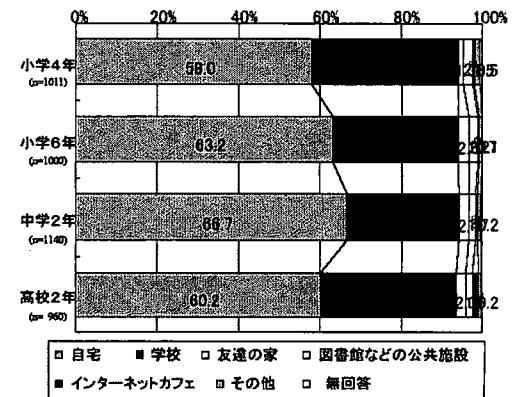


図2 パソコンの主な利用場所

#### 1-3. パソコンの利用開始時期

パソコンの利用開始時期は、低学年ほど早期

となっている。学校へのPC導入がほぼ完了し、同時に家庭へのパソコンの普及も進んでこのようなデータとなったと考えられる。今後はさらに小学校入学前～小学校低学年時からのパソコン利用開始が見込まれる。

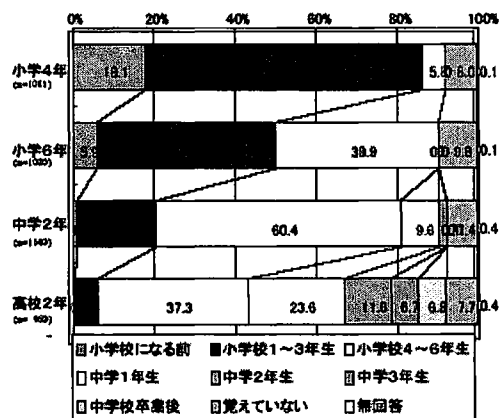


図3 パソコンの利用開始時期

1-4. 自由に使えるパソコンの有無

高学年で「自分専用のパソコンを持つ」比率が高いが、現在のところ、最も値の高い高校2年生でも13.1%である。「家族が持っており、自分も自由に使える」を加えた、自由に使えるパソコンがある子どもは、小学校6年生以上で75%をこえている。

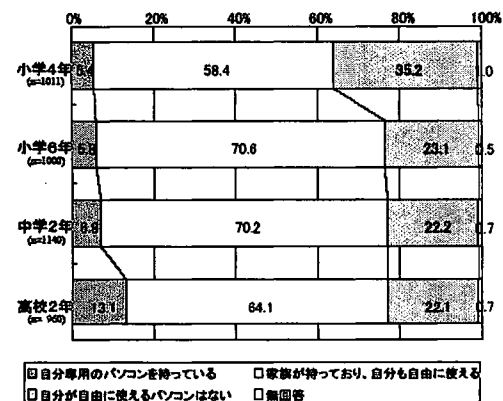


図4 自由に使えるパソコンの有無

1-5. 自由に使えるパソコンの場所

いずれの学年においても「家族の居間」が50%を越えている一方、次第に「自分の部屋」に導入される傾向が見える。

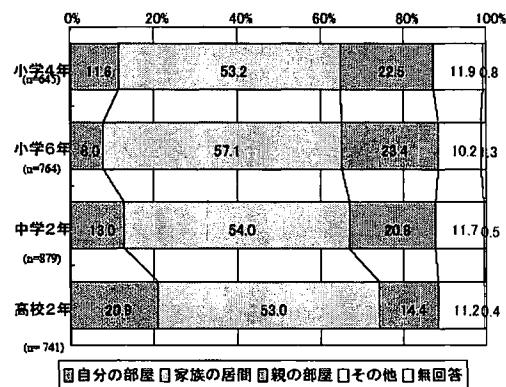


図5 自由に使えるパソコンの場所

2. インターネットの利用実態

2-1. パソコンや携帯電話を使っているインターネット利用経験

インターネット利用者の割合は学年とともに上昇している。「時々利用している」を含めると、高校2年生では約80%が利用している。(次頁図6)

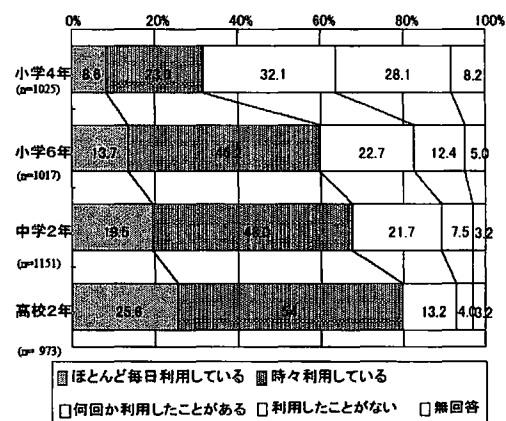


図6 インターネット利用経験

2-2. インターネットの接続場所

インターネット接続場所(手段)は「自分の家のパソコン」「学校のパソコン」「携帯電話」

が多い。

学年別では、いずれの学年においても「自分の家のパソコン」での接続は多いが、低学年では「学校のパソコン」、高校 2 年では「携帯電話」の割合が大きくなっている。

さらに、最も良く接続するところ、で見ると、小学 4 年生から中学 2 年までは自分の家のパソコンからの利用の割合が高いのに対し、高校 2 年では携帯電話からの利用が逆転している。(図 7)

2-3. インターネットの接続頻度

インターネットの接続頻度は学年とともに増加している。高校 2 年生の約 35%が週 4 日以上インターネットに接続している。この層では図 7 からも携帯電話による接続の割合が高いと考えられる。また、携帯所有率の低い中学 2 年生、

小学 6 年生でも週 4 日以上接続者は 20%をこえている。(次々頁図 8)

2-4. インターネットに接続するタイミング

インターネットに接続するのは、「休みの日に家にいる時」「学校が終わってから家にいるとき」「授業中」が特に多く、学年があがるにつれ、「家にいる時」に接続する機会が多くなっている。

また、パソコン利用者、携帯利用者とも、接続するタイミングは「家にいるとき」が多い。

「授業中」については、授業の中での学習内容に沿った活用が主であると考えられる。

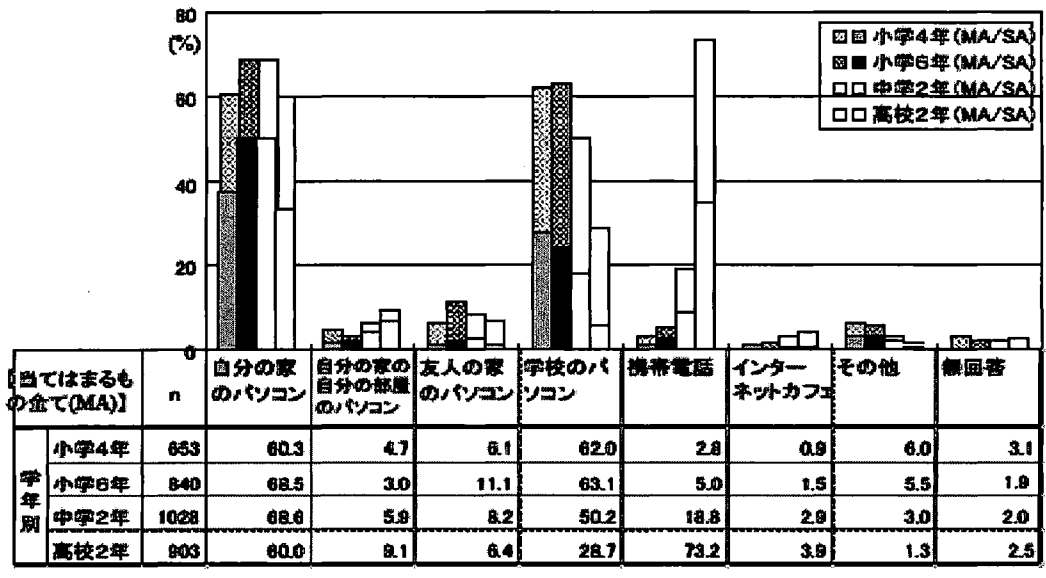
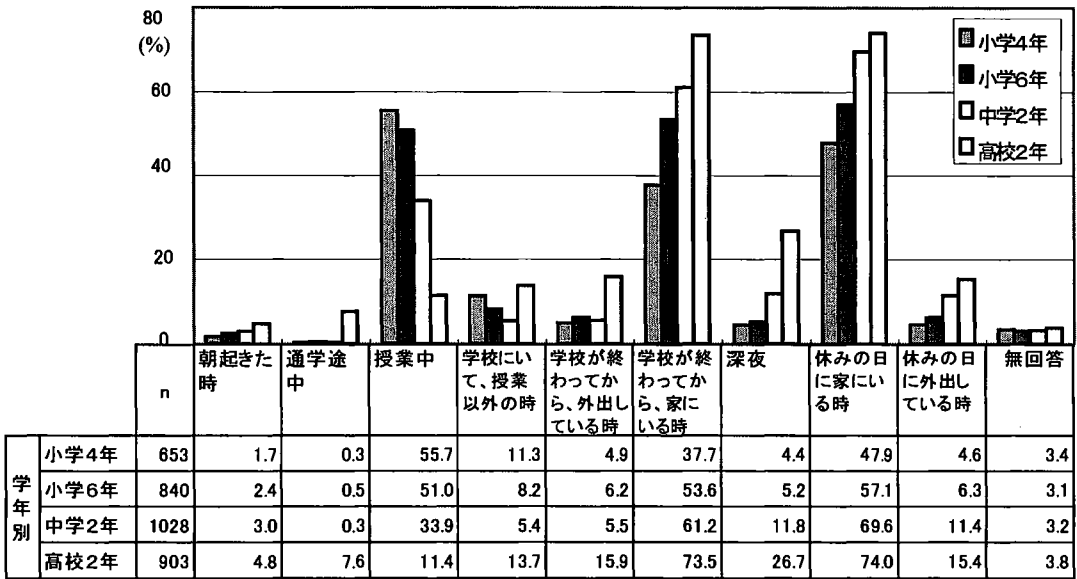


図 7 インターネットの接続場所



学年別	n	朝起きた時	通学途中	授業中	学校にいて、授業以外の時	学校が終わってから、外出している時	学校が終わってから、家にいる時	深夜	休みの日に家にいる時	休みの日に外出している時	無回答
小学4年	653	0.8	-	25.4	2.5	2.5	15.2	0.5	21.9	1.5	29.9
小学6年	840	0.2	-	19.6	2.5	1.5	26.1	1.8	26.1	2.1	20.0
中学2年	1028	0.3	0.2	16.3	2.2	1.1	27.7	1.4	32.6	2.4	15.8
高校2年	903	0.2	-	5.5	4.1	1.0	25.1	4.0	32.2	2.3	25.5

学年別	n	朝起きた時	通学途中	授業中	学校にいて、授業以外の時	学校が終わってから、外出している時	学校が終わってから、家にいる時	深夜	休みの日に家にいる時	休みの日に外出している時	無回答
小学4年	653	0.2	-	0.8	0.2	0.2	1.1	0.2	1.2	0.6	95.7
小学6年	840	-	0.1	0.7	0.4	0.2	2.6	0.5	3.1	0.8	91.5
中学2年	1028	0.6	-	0.6	0.2	0.7	11.6	1.8	10.2	2.1	72.2
高校2年	903	0.6	2.7	1.4	2.0	4.5	32.3	7.4	22.5	2.9	23.7

図9 インターネットに接続するタイミング

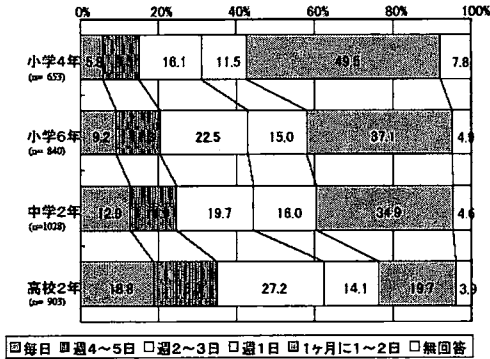


図8 インターネットの接続頻度

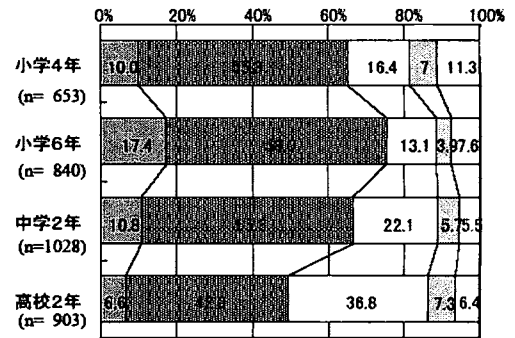
2-5. インターネットの利用目的

ゲームや音楽での活用、学習での活用は各段階を通じて多く利用されていることがわかる。また、電子メールでの利用は学年段階があがるにつれて大きな伸びを示している。2004年の佐世保での事件以来、懸案となっている「掲示板」「チャット」の利用は、県内の子どもたちについては2割程度というデータであった。「ホームページ製作」の値はそれぞれ低いが、普及の著しい「ブログ」(=ウェブ・ログ、ホームページ(Website)より容易に開設・運用できる公開日記、情報提供・交流板のようなもの)については今回、質問文中で言及できなかった。次回以降の調査では必ず確認したい。ネット上での買い物についても、高校2年で25%程度だが、年齢が進むにつれて利用率は上昇している。

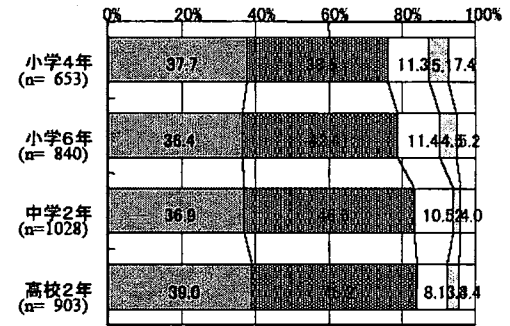
(2-5.凡例↓)

よくする	ときどきする	使ったことない
わからない	無回答	

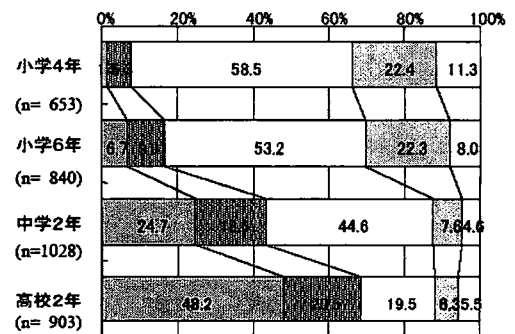
■ 学習(調べ学習など)につかう(図10)



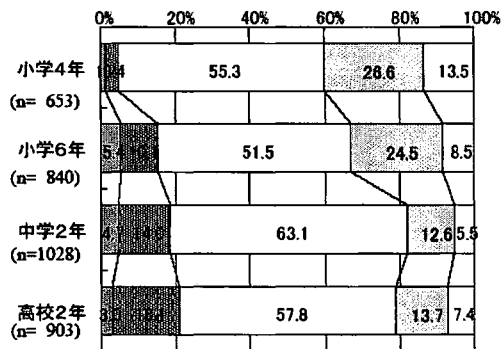
■ ゲームや音楽など(図11)



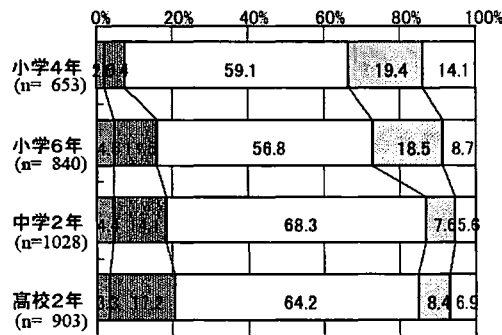
■ 電子メールのやりとり(図12)



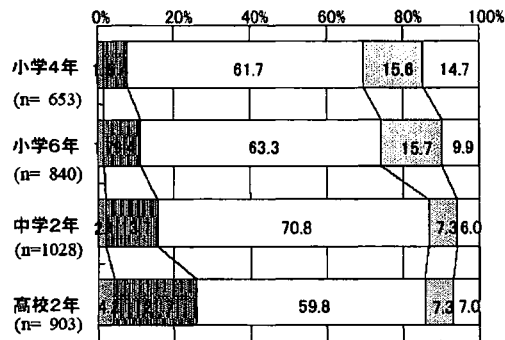
■チャットのやりとり (図 13)



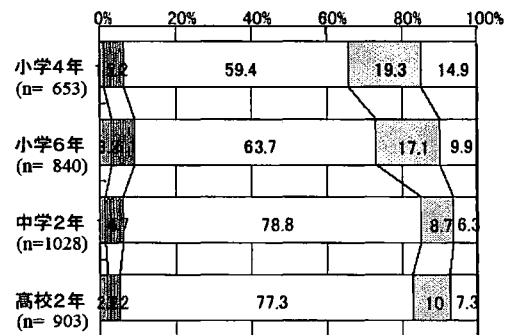
■掲示板への書き込み (図 14)



■買い物 (図 15)



■ 自分のホームページを作る (図 16)



### 3. インターネットに対する親の関与

#### 3-1. インターネットの相談相手

いずれの学年においても「学校の先生」の割合は低く、低い学年ほど「親」に相談しており、中学2年までは50%を越えている。また、学年が上がるとともに「友達」と相談する割合が増加しており、高校2年生では「親」を抜いて39.0%となっている。

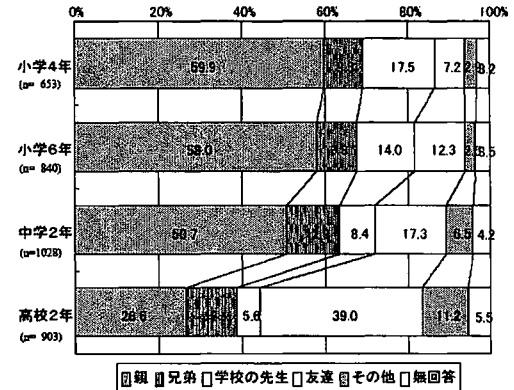


図 17 インターネットの相談相手

#### 3-2. 親のインターネット習熟度

親のインターネット習熟度を子どもがどう捉えているかを問うた。学年が上がるにつれ、親よりも自分の方がよく知っていると考える割合が増えており、これは 3-1「相談相手」と関連した結果を示している。



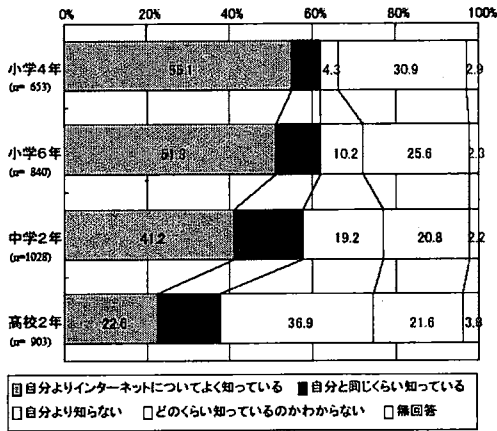


図18 親のインターネット習熟度

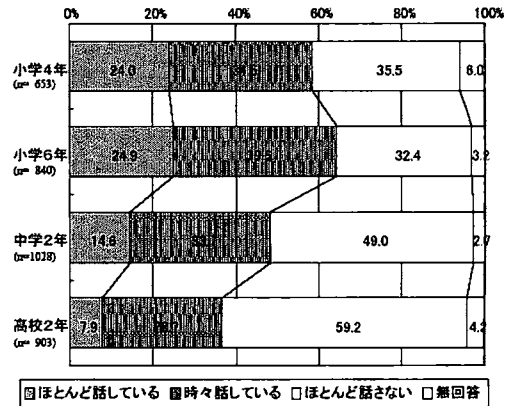


図19 インターネットに関する親とのコミュニケーション

3-3. インターネットに関する親とのコミュニケーション

高学年になるにつれ、「ほとんど話さない」の割合が増える。先の2項目と次の[インターネットに対する親の関与度]からもわかるように、学年が上がるほど親の関与の度合いが下がっている様子が見えてくる。

3-4. インターネットに対する親の関与度

いずれの学年においても、インターネット使用について「何もせず自由にに使わせてくれる」親が最も多く、小学校6年生の段階ですでに50%をこえている。フィルタリングソフトの利用などもほとんどなく、学年が上がるにつれ、ほぼ自由にネットに接続している様子が見て取れる。

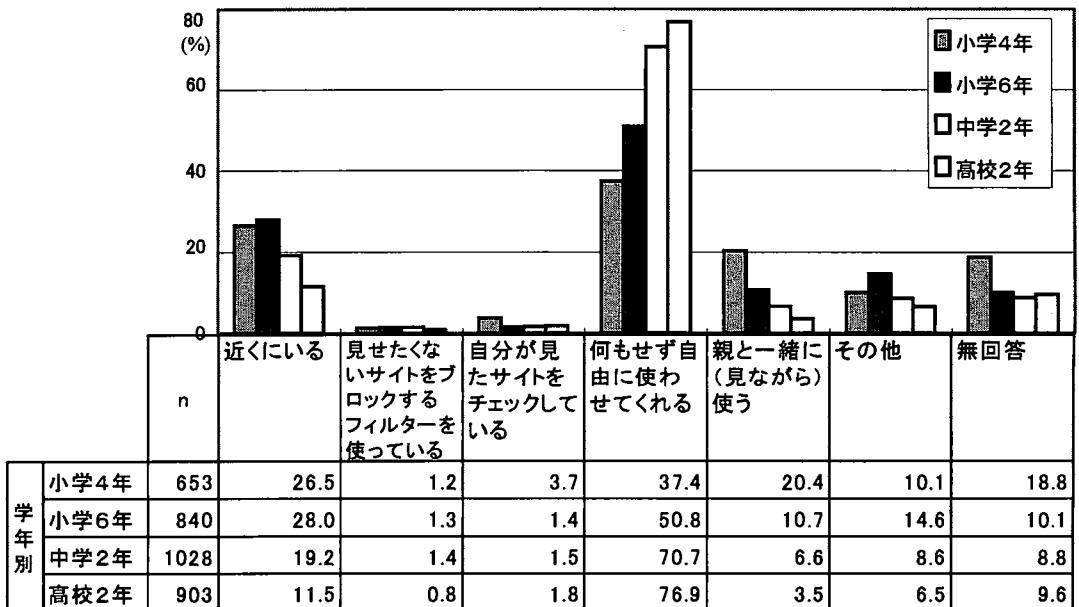


図20 インターネットに対する親の関与度

## IV 考察

### 1. 子どもたちのインターネット利用環境

[1-3.パソコンの利用開始時期]からも見て取れるように、学校や家庭へのこの数年の急速なパソコンの整備・普及を背景に、早い時期からのパソコンの利用が目立ち始めている。小学校低学年時、あるいはそれより早くからパソコンを使い始める子どもの割合はますます増えて来るであろうことはこの頃の小学6年、小学4年の割合の推移などから予想できる。今後「生まれたときから身近にパソコンがある」という状況が更に広がり、学校での学習場面での利用以前からパソコンを使用し始めるケースも増えると考えられる。

また、[1-4.自由に使えるパソコンの有無]などから、かなり早い段階から家庭で自由にパソコンを使える環境が与えられていることが確認された。[2-2.インターネットの接続場所]の中学2年のデータなどから自宅パソコンの6割以上はインターネットに接続して使用されていると考えられ、小学校の早い段階からの自宅での利用が今後も更に進むと考えられる。

### 2. インターネット利用実態

小学校高学年の半数以上が、インターネットに週一回以上接続し、利用している。[2-5.インターネットの利用目的]から、学習目的や娯楽目的の利用は各学年で多く見られるが、電子メールをはじめ、チャットや掲示板など、コミュニケーション手段としての利用は学年が上がるにつれて増加している。ただ、調査前に予想していたほどチャットや掲示板、買い物での利用の割合、高学年での伸びは大きくなく、今後どのように推移するか、引き続き動向を見守ってきたい。

高校生になると一気に携帯電話の利用が進み、インターネットにも携帯電話から接続する機会が多くなるのが[2-2.インターネットの接続場所]から明らかになった。確証を得るにはより細かい精度（各学年データの収集）での調査が必

要になるが、高校生のインターネット接続頻度、電子メールでの利用増加のある程度の部分は携帯電話での接続が関わっていると考えられる。

また、[2-4.インターネットに接続するタイミング]では、「授業中」の接続・利用が、学年が上がるるとともに減少するのに対して、「学校が終わってから、家にいるとき」「休みの日に家にいるとき」に利用する割合が学年とともに大きく伸びている。この調査の他の項目からも「インターネットは主に家で利用する」という利用実態が読み取れ、学年が上がるほどこの傾向が強くなることが確認された。

### 3. インターネットのパーソナルな利用

[3.インターネットに対する親の関与]各項目から、インターネットの利用に関して、学年が上がるにつれて親の関与が大きく減少することが確認できた。中学2年以上では7割以上の親が「何もせずに自由に使わせて」おり、また学年が上がるにつれて自分の部屋にパソコンのある割合も伸び [1-5.自由に使えるパソコンの場所]、および携帯電話の利用も高率になっていることなどから、高い学年での「個人的な空間で自由にインターネットを利用する」姿が浮かび上がる。高学年でコミュニケーションの道具としての利用がのびること等からもある意味自然な結果が出たと言える。しかし、本論では取り上げていない調査実施項目では「有害サイト・映像の閲覧経験」が中学から高校にかけて大きく伸び、またその手段も自宅のパソコンから携帯電話へ推移しているというデータが出ている。家庭においてインターネットをどのように利用させるか、保護者の側でも検討の余地があるといえよう。

### 4. 全体を通して

この調査の趣旨、「青少年の適正なインターネット・携帯電話の利用推進」から考えると、二つのことが今後の課題としてあげられる。

一つは、小学校低学年あるいはそれ以前の段

階からインターネットに接続するようになる子どもたちに対して、家庭や地域、学校はどのように働きかけていくべきかをより具体的に検討して行かなくてはならない、ということである。数年前まで、子どもたちは「小学校で」パソコン・インターネットを使い始める、というケースが多く見られた。この場合、教師が授業などを通して使用方法、ネットモラルなどについての指導を段階的に行いながら利用を進めていくことも可能であった。しかし、今回の調査結果が示すように、小学校で指導が始まる以前からパソコン・インターネットに触れる子どもの割合は、今後ますます増えるものと予想される。現在はまださほど注目されていないが、幼年期における家庭・教育機関でのパソコン・インターネット利用の「あり方（使わせるか、使わせないかも含めて）」を検討し、使わせるのであれば、具体的に指導方法や教材等の開発を進める必要があるだろう。同時に、まだ余り認識の高まっていない家庭・地域の意識向上の働きかけが必要ではないだろうか。今回のデータからも小学生段階までは家庭（保護者）の関与する余地が充分にあることがわかる。ただ漫然と使わせるのではなく、「有害情報」のサイトにつながってしまったときにどうするのか、事件・事故に遭った場合にどうするのか、この情報は送信して良い情報なのかどうか等、子どもとともに利用する中で話し合うなどしてインターネットモラルや危険な部分への理解を深めさせたい。フィルタリングソフトの導入など、家庭においても事故等を未然に防ぐ手だてをとってもらふ必要があるだろう。

二つめは、中学生・高校生を中心に、高学年の子どもたちのインターネット・携帯電話利用

について、どのように大人の側が関わりを持っていくか、検討を進めなければならない、ということである。[3-1.インターネットの相談相手][3-2.親のインターネット習熟度]からわかるように、身近な大人である親や教師は、学年が上がるにつれ相談相手とは見られなくなる。ネット利用の技術が高まる分、より高度なレベルの問題に遭遇したり、自ら引き起こしたりする場合がある。こういった場面で安心して問題解決のためのアドバイスを受けることができるような機関や情報提供サイトは未だ少ない。保護者・教師の力量アップによる信頼回復もさることながら、今後こういったものの整備も進めていく必要があるのではないだろうか。

最後になりましたが、石川県健康福祉部子ども政策課の方々には、今回のような貴重な調査の設問等の検討に関わる機会をいただき、さらにデータの使用をお認めいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

#### ■ 参考文献

- 1) 総務省：「平成 15 年通信利用動向調査の結果」  
[http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/pdf/040414\\_1\\_a.pdf](http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/pdf/040414_1_a.pdf)
- 2) 日本 PTA 全国協議会：平成 16 年度「家庭環境におけるテレビメディア調査/青少年とインターネットに関する調査」
- 3) “ののいちっ子を育てる” 町民会議：平成 17 年 3 月 『「携帯電話」に関するアンケート結果報告書 - 「携帯電話と子ども社会を考える」教職員・育成指導者のための資料集-』